

経営比較分析表（令和3年度決算）

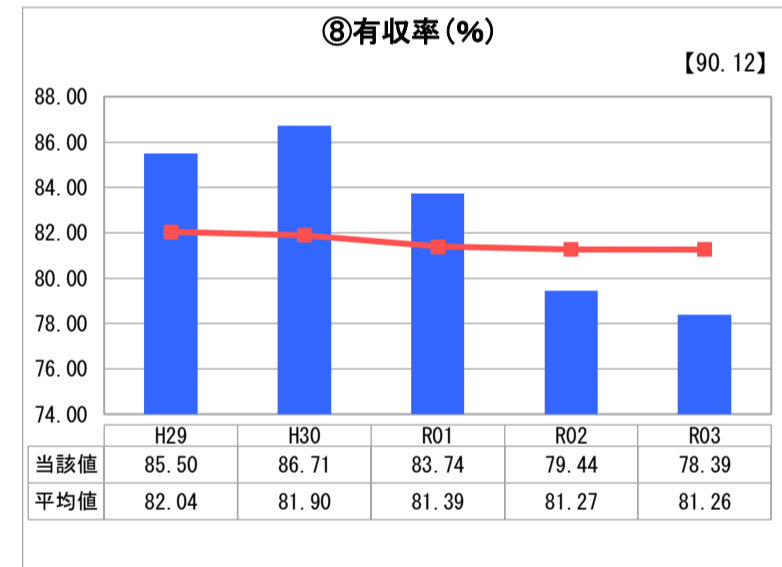
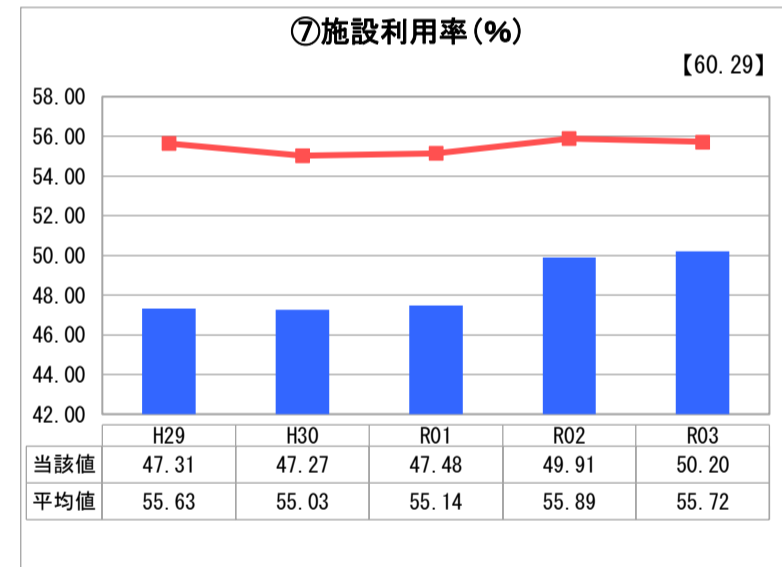
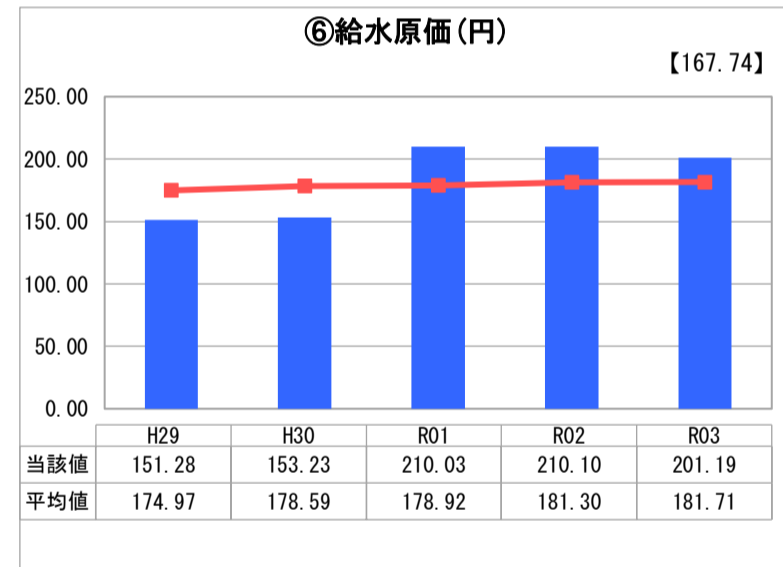
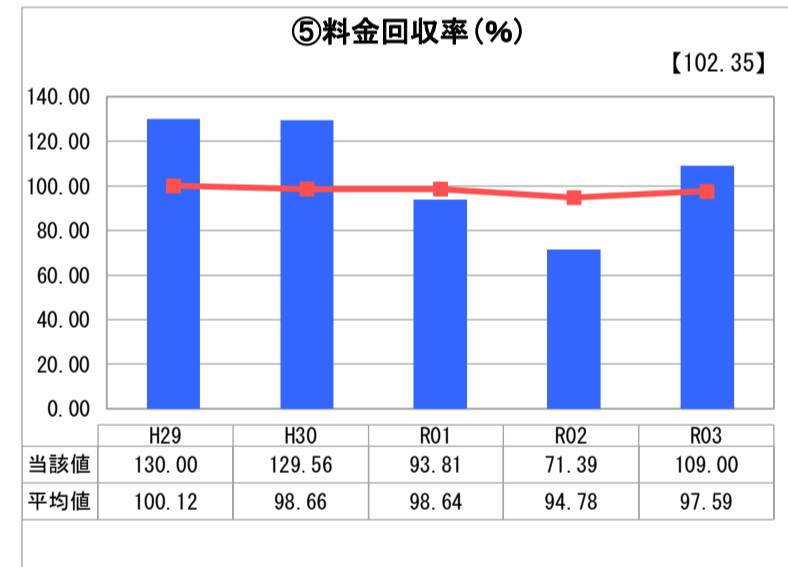
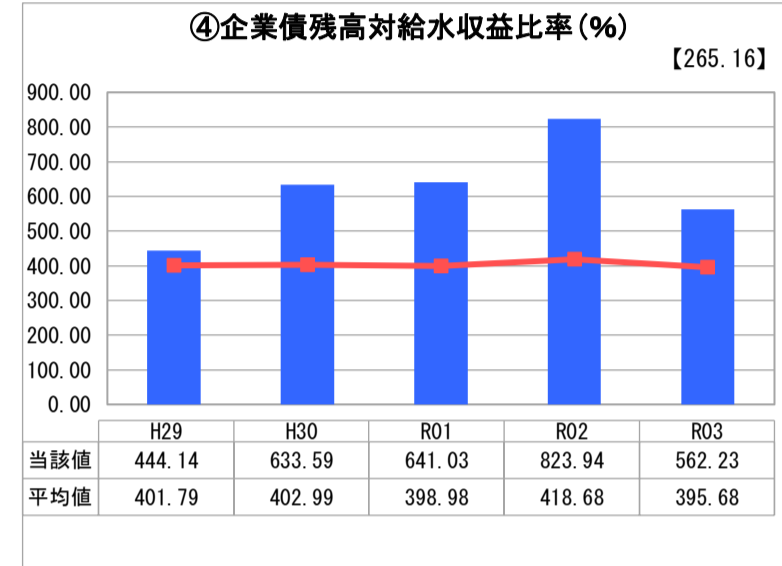
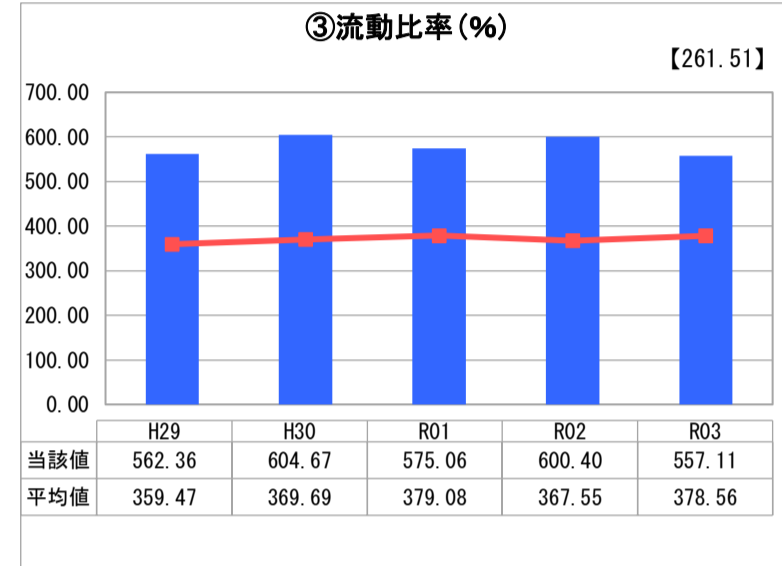
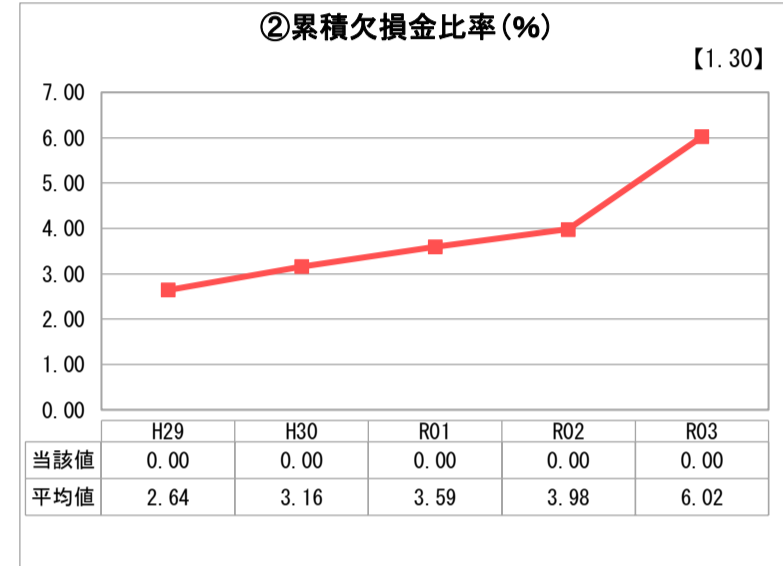
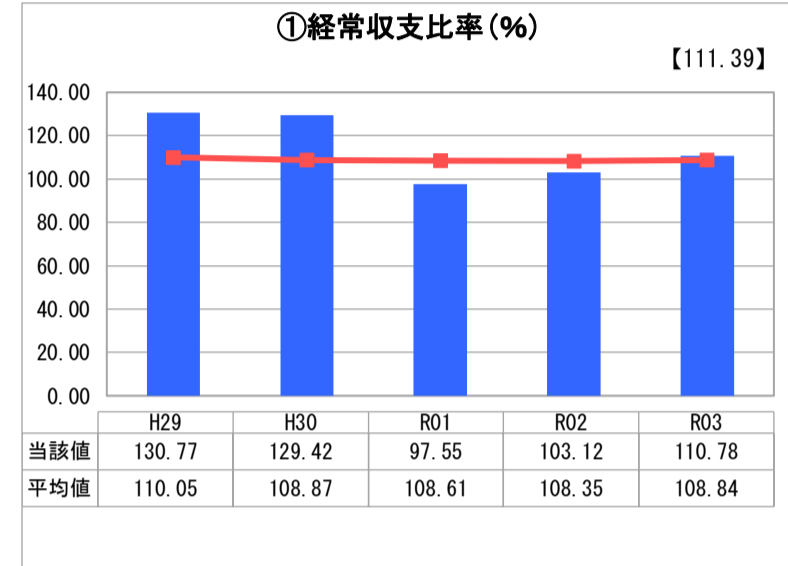
新潟県 妙高市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	58.75	81.86	3,014	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,828	445.63	69.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,074	95.57	262.36

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

妙高市の水道事業は、浄水場や老朽化した基幹施設の更新予定があるため、財源確保のため計画的な料金改定を実施している。

①経常収支比率は、H30年度までは100%を超えており、類似団体と比較して高い水準にあったが、R1年度以降は施設更新に伴う減価償却費の増大等により類似団体平均と同程度となっている。しかし、②累積欠損金はなく、支払能力を示す③流動比率も100%を超えていることから、当面の問題はなく健全な経営状況にある。

④企業債残高対給水収益比率は、浄水場更新に伴う借入により、30年度から大幅増となった。今後も施設の更新計画が見込まれていることから、健全性を確保しつつ更新を進めたい。

⑤料金回収率は、100%を上回っており、類似団体との比較においても大会水準にあるが、基幹施設更新を計画しており今後も施設更新を踏まえた適正な料金改定を実施していく。

⑥給水原価は浄水場更新を進めていることから、修繕、委託事業の見直しなど経営効率化を進め、低い原価の維持に努めてきたが、施設更新に伴い、増加した。

⑦施設利用率は観光地を含むため、季節による需要変動があり給水能力の確保の観点から低い状況にあるが、基幹施設更新の際は、観光入込客数や人口動態の分析を行い適正規模へのダウンサイジングに取り組んでいく必要がある。

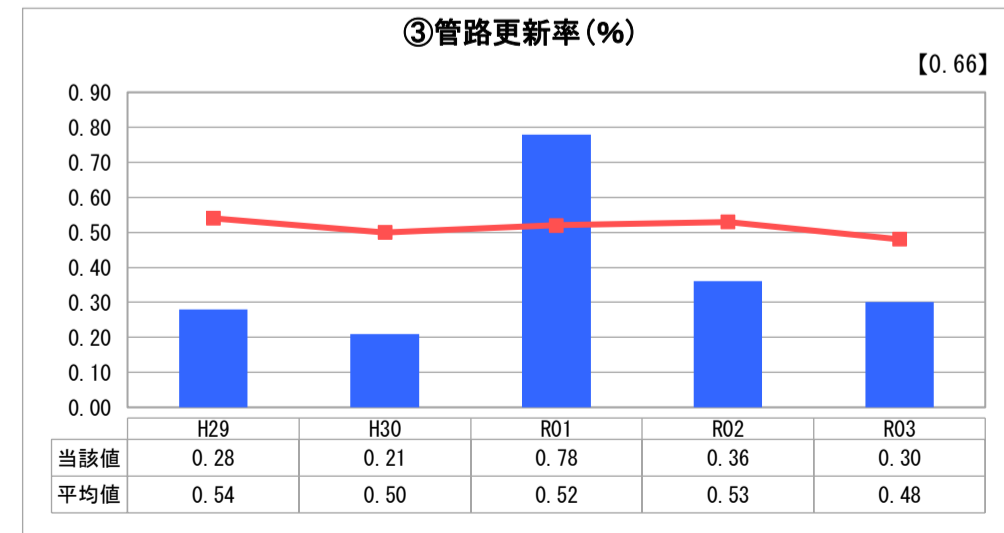
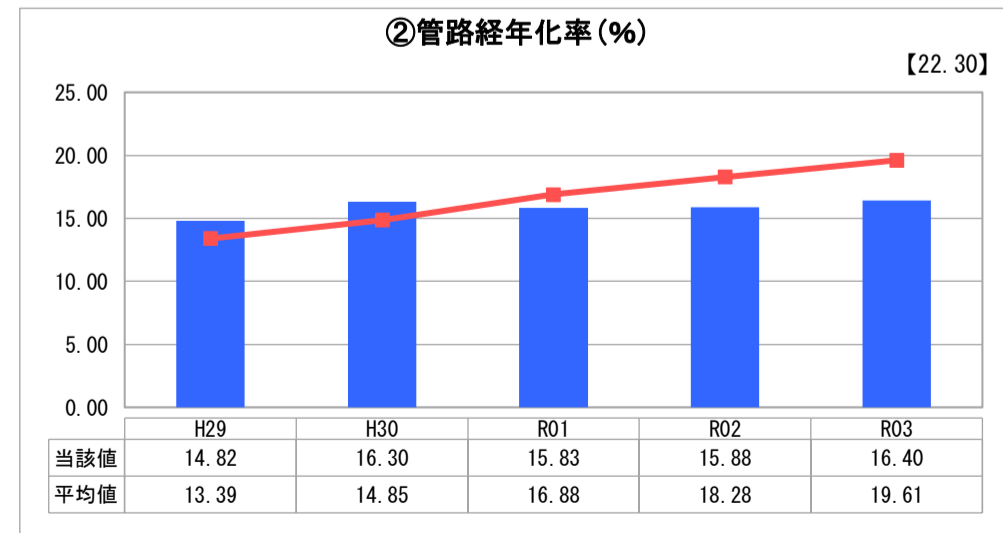
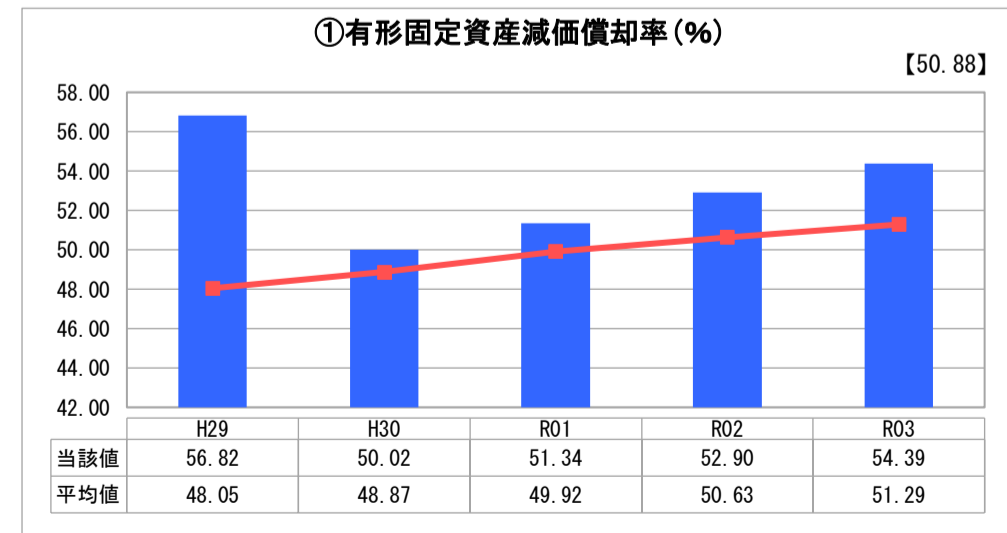
⑧有収率は類似団体と比較して高い数値であったが、漏水等によりR2年度以降は下回っている。漏水修理などの維持管理に努めていく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は施設の老朽化により増加傾向にあったが、H30年度の浄水場更新に伴い一時的に改善した。

管路更新は、漏水多発箇所を中心に更新を進めたためであるが、②経年率や③管路更新率の大幅な改善は難しい。今後も故障リスクを軽減するため、漏水調査の実施や適正な維持管理に努めるとともに更新需要のピークを迎えることを踏まえた計画的な管路更新を進めていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

新型コロナウイルス感染拡大により減少していた宿泊業など業務用の使用水量も回復傾向にある。

全体的には、浄水場更新に伴う減価償却費の増加による給水原価の上昇などがみられるが、計画的な料金の増額改定を進めてきており、また、今後も基幹施設更新を考慮した改定を行っていく考えであり、指標の改善を図っていく。

経年更新は、今後更新需要のピークを迎えることから、更新計画の見直しを行うとともに、適正な維持管理による施設の長寿命化に努め更新費用の抑制に努める。

人口減少、コロナ禍による給水収益の減少や老朽施設の更新で多額の費用が必要となるが、施設のダウンサイジングや経費の節減により、中長期的な事業費の平準化などにより健全経営の維持に努める。